

## 名古屋東山周辺の昆虫相

### II. 甲虫目 (3) コガネムシ科

内 藤 通 孝\*

Insect Fauna around Higashiyama in Nagoya

II. Coleoptera (3) Scarabaeidae

Michitaka NAITO

#### はじめに

「名古屋東山周辺の昆虫相」各論の第3回として、コガネムシ科を取り上げる。我が国におけるコガネムシ上科は、クワガタムシ科、クロツヤムシ科、コブスジコガネ科、マンマルコガネ科、ムネアカセンチコガネ科、センチコガネ科、アツバコガネ科、アカマダラセンチコガネ科、コガネムシ科の9科からなり、400種以上が記録されている。コガネムシ科は、このうちの8割以上を占めている。クワガタムシ科については前回報告したので、今回はそれ以外について報告する。ただし、名古屋市内で観察できるものの殆どはコガネムシ科に属する。

コガネムシは、通常、「黄金虫」と書く。『広辞苑（第5版）』では「金亀子」の字も宛てている。構造色で輝く種が多く、いかにも縁起の良さそうな虫である。しかし、一方では、農業害虫として嫌われているものも多い。

本稿では、名古屋市内、とくに千種区東山・昭和区八事界隈のコガネムシ28種を記録・報告する。『愛知県の昆虫（上）』<sup>1)</sup>には、名古屋市内から38種が記録されているが、今回記録する種のうち、コクロコガネ・クリイロコガネ・カミヤビロウドコガネ・ワタリビロウドコガネ・アオドウガネ・ヒメトラハナムグリの6種については記録がない。このうち、コクロコガネ・クリイロコガネ・アオドウガネの3種は、筆者が既に報告したものである（表）。『愛知県の昆虫（上）』の「コガネムシ類」の部分は、穂積俊文\*が中心になって長年の調査結果をまとめたものであるが、既に20年を経過しており、本報告では、その後の動向をまとめておきたい。

また、愛知県の第二次レッドリスト<sup>2)</sup>には、コガネムシ8種（ダイコクコガネ・クロモンマグソコガネ・オオチャイロハナムグリ・ヤマトケシマグソコガネ・アカマダラコガネ・クロカナブン・ヤマトアオドウガネ・トラハナムグリ）が含まれており、このうち、アカマダラコガネ（最近ではアカマダラハナムグリとしているものが多い）*Anthracophora*

---

\* 生活科学部 管理栄養学科

表 名古屋市におけるコガネムシの報告

	既知産地	標 本	本報告
<u>コブスジコガネ科</u>			
マルコブスジコガネ	○		
チビコブスジコガネ	○		
<u>ムネアカセンチコガネ科</u>			
ムネアカセンチコガネ	○		
<u>センチコガネ科</u>			
センチコガネ	○	○	○
<u>コガネムシ科</u>			
<u>タマオシコガネ亜科</u>			
コブマルエンマコガネ	○	○	○
マルエンマコガネ	○		
<u>マグソコガネ亜科</u>			
コマグソコガネ	○		
セマダラマグソコガネ	○		
<u>コフキコガネ亜科</u>			
アカビロウドコガネ	○	○	○
ビロウドコガネ		○	○
カミヤビロウドコガネ			●
ヒメビロウドコガネ	○		
マルガタビロウドコガネ	○		
ワタリビロウドコガネ			●
ヒメカンショコガネ	○		○
クリイロコガネ			● <sup>*1</sup>
クロコガネ	○	○	○
オオクロコガネ	○		○
コクロコガネ			● <sup>*1</sup>
ナガチャコガネ	○		○
オオコフキコガネ	○		
コフキコガネ	○	○	
<u>スジコガネ亜科</u>			
コイチャコガネ	○	○	○
マメコガネ	○	○	○
ナラノチャイロコガネ		○	
カタモンコガネ	○		○
セマダラコガネ	○		○
コガネムシ		○	
アオドウガネ			● <sup>*2</sup>
オオスジコガネ	○		
ドウガネブイブイ	○	○	○
ハンノヒメコガネ	○	○	
ヒメコガネ	○	○	○
スジコガネ	○	○	○
<u>カブトムシ亜科</u>			
カブトムシ	○	○	○
コカブトムシ	○		○
<u>ハナムグリ亜科</u>			
カナブン	○		○
アカマダラハナムグリ	○		
クロハナムグリ	○		
ハナムグリ	○	○	○
シロテンハナムグリ	○		○
コアオハナムグリ	○	○	○
ヒメトラハナムグリ			●
ヒラタハナムグリ	○		○

「既知産地」の○は、『愛知県の昆虫（上）』に記載があるもの。

「標本」の○は、同書に標本の存在が記録されているもの。

「本報告」の○は本論文で記録する種のうち、同書に記録のあるもの、●は記録のないもの。

\* 1 文献 11 に既報 \* 2 文献 10 に既報

*rusticola* は、以前には名古屋市内にも生息していた記録がある。

\*穂積俊文（1926～2007）：名古屋大学医学部卒。小牧市民病院長等を経て、小牧市で医院開業。名古屋昆虫同好会会長を務めた。名古屋大学医学部における筆者の先輩。

## 観察記録

分類・学名・和名は、原則として『日本産コガネムシ上科総目録』<sup>3)</sup> および、その後の改訂は『日本産コガネムシ上科図説 1・2』<sup>4,5)</sup> に依ったが、亜種名は採用していない。古いものは採集し、標本として保管しているものが多い。2002 年からはデジタルカメラによる写真記録を原則とし、死骸や種名確認等のやむを得ない場合は標本として保存している。生態写真の撮影および標本の採集・保管については、特に記載のないものは筆者による。

表記は簡略にするため、以下の原則に従った。

例数、(性)、採集(観察)年月(日)、観察場所(名古屋市を省略)の順に記し、1 例のみの場合は例数を省略した。雌雄を鑑別した場合は♂、♀の記号を入れた。観察年月日は 8 桁(年月日の場合)または 6 桁(年月の場合)で示した。

例えば、「2 ex 19970727 昭和区八事本町興正寺」であれば、2 例(雌雄区別せず)で、1997 年 7 月 27 日に名古屋市昭和区八事本町興正寺の境内で記録したことを表している。

また、大きさ(体長)は自験例の全長(カブトムシ・コカブトムシ・コブマルエンマコガネの♂のように角のある場合は、角を除く)の最小値と最大値を mm 単位で示した。

## コガネムシ上科 Superfamily Scarabaeoidea

コガネムシ上科は、食性によって食糞群と食葉群に大別される。今回報告するもののうち、センチコガネとコブマルエンマコガネのみが食糞群に属し、他は全て食葉群に属する。食糞群は、一般に糞虫ふんちゅうと呼ばれ、幼虫・成虫ともに獣糞や腐肉を食べる。食葉群では、幼虫は朽木・腐植土・植物の根などを食べて育ち、成虫は植物の葉・花粉・樹液・熟果などを食べる。

食糞群は、糞転がし型と坑道型に分けられる。糞転がし型は、ファーブルの『昆虫記』で有名なスカラベに代表されるが、日本産糞虫の殆どは坑道型である。坑道型は、①糞内に産卵するもの、②糞塊を球状に加工せずに運ぶか、糞の下側に坑道を作って糞塊を地中に運ぶもの、がある。日本産糞虫の中では、糞転がし型はマメダルマコガネ・マルダルマコガネ・アカダルマコガネの 3 種とされる<sup>6)</sup>。

## センチコガネ科 Family Geotrupidae

### 1 センチコガネ *Phelotrupes laevistriatus*

標本：♀ 19870915 昭和区滝川町；♂ 199007 昭和区滝川町；♀ 19900927 昭和区滝川町(燈火飛来)；♀ 19910916 昭和区滝川町(死骸)；♂ 199409 昭和区滝川町(燈火飛来)；2 ♂ 199410 昭和区滝川町(内藤孝二郎採集)(写真 1a)；♂ 19960929 昭和区滝川町(燈火飛来)；♂ 19961012 昭和区滝川町(燈火飛来)(内藤孝二郎採集)；♀ 20021231 昭和区滝川町；♂ 20030714 名東区藤巻町(死骸)；♀ 20040626 昭和区八事本町興正寺(死骸)；♀ 20040912 昭

和区八事本町興正寺(死骸); ♂ 20040918 名東区藤巻町(死骸); ♂ 20051013 名東区藤巻町(死骸); ♀ 20070518 千種区東山公園(写真 1c); ♂ 200711 名東区藤巻町(死骸); ♀ 20071127 千種区星が丘元町; ♀ 20080318 千種区星が丘元町(死骸)(一色忍採集); 2 ♂ 20080528 千種区平和公園(一色忍採集)(写真 1b); ♂ 20081201 名東区藤巻町(死骸)

体長: 14 ~ 19 mm。

「せんち」とは、せっちん(雪隠), 即ち便所のことである。人のほか, 牛・鹿・猿・羊・狐・猪・犬など種々の動物の糞に集まり, 市街地でもよく見られる<sup>4)</sup>。燈火にも飛来する。3月から12月まで観察される。金属光沢を有し, 紫・紫銅・青紫・金銅・緑銅など多様な色彩変異が報告されているが, 名古屋市近辺では金銅色のものが多く, ほかに紫銅, 黒銅色のものも見られる(写真 1)。雌雄は, ♂では前脛節に下方に突出する 1 歯があるが, ♀ではこれを欠くことにより区別できる。日本全土のほか, 朝鮮半島・中国・サハリン・シベリアにも広く分布する<sup>3)</sup>。

## コガネムシ科 Family Scarabaeidae

### 2 コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis*

標本: ♀ 19900917 昭和区滝川町(燈火飛来); ♀ 19920813 昭和区滝川町(死骸); ♂ 20011011 昭和区八事本町興正寺(死骸)(写真 2a, b); ♂ ♀ 20020506 昭和区八事本町興正寺(死骸); ♀ 20030525 昭和区八事本町興正寺; ♂ 20030726 昭和区八事本町興正寺; ♀ 20041106 昭和区八事本町興正寺(死骸)(写真 2c); ♂ 20090816 昭和区八事本町(死骸)

体長: 7 ~ 9.5 mm。

エンマ(閻魔)の名称は, 厳つい感じから来ているのであろう。5月から11月頃まで見られる。犬・人・牛・馬・狸・熊・テンなどの糞に集まり, 市街地でも多く見つかる<sup>4)</sup>。燈火にも飛来する。雌雄は, ♂では前胸背板中央に縦長の窪みがあり, その両側は隆起するが, ♀はこれを欠くことにより, 容易に区別できる。また, ♂では頭部後方の隆起が 2 角の板状に発達する(写真 2b 矢印)。日本全土の他, 朝鮮半島・中国にも分布する<sup>3)</sup>。

### 3 アカビロウドコガネ *Maladera castanea*

標本: 1 ex 196507 昭和区; 1 ex 19870718 昭和区滝川町; 1 ex 199008 昭和区滝川町; 1 ex 19910707 昭和区滝川町; 1 ex 19910718 昭和区滝川町(燈火飛来); 1 ex 19940723 昭和区滝川町(写真 3); 1 ex 20010909 昭和区滝川町(死骸); 1 ex 20020726 昭和区滝川町(死骸); 1 ex 20030712 昭和区滝川町; 1 ex 20030810 昭和区滝川町; 1 ex 20040612 昭和区滝川町; 1 ex 20080713 昭和区滝川町(燈火飛来)

体長: 8 ~ 9.5 mm。

赤褐色~暗赤褐色で虹色の光沢を有する。ビロウド(ビロード)とはベルベット(velvet)のことで, 背面にビロウド状の光沢があることから, この名がある。6月から9月にかけて見られる。燈火に飛来する。日本全土の他, サハリン・台湾に分布し, 朝鮮半島・中国・北アメリカにも生息するらしい<sup>3)</sup>。

### 4 ビロウドコガネ *Maladera japonica*

標本：1 ex 19650701 昭和区；1 ex 19910530 昭和区滝川町；1 ex 19910715 昭和区滝川町；1 ex 19920813 昭和区滝川町（死骸）；1 ex 19960803 昭和区滝川町；1 ex 200308 昭和区滝川町；1 ex 20070810 昭和区滝川町（写真4）；2 ex 20040717 昭和区滝川町（死骸）；1 ex 200707 昭和区滝川町；1 ex 20080717 昭和区滝川町（燈火飛来）；1 ex 20080717 千種区星が丘元町（燈火飛来）

体長：7.5～9.5 mm。

黒褐色～黒色で背面にビロウド状の光沢を有する。5～8月に見られる。燈火に飛来する。日本全土の他、朝鮮半島に分布する。中国にも生息するらしい<sup>3)</sup>。

5 カミヤビロウドコガネ *Maladera kamiyai*

標本：1 ex 20080707 昭和区滝川町（体長10 mm）（燈火飛来）（写真5）

黒褐色～暗赤褐色、ときに黒色。5～10月に出現する<sup>7)</sup>。ビロウドコガネに似るが、前脛節の突起が2個（ビロウドコガネでは3個）、ヒメビロウドコガネとは触角が10節（ヒメビロウドコガネでは9節）などで鑑別できる<sup>8)</sup>。本州・四国・九州に分布する他、台湾にも生息するらしい<sup>3)</sup>。

6 ワタリビロウドコガネ *Nipponoserica peregrina*

標本：♂ 19910530 昭和区滝川町；♂ 19900702 昭和区鶴舞町；♂ 19940517 昭和区滝川町；♀ 20030514 昭和区滝川町；♀ 20080527 昭和区滝川町（死骸）（写真6）

体長：8～9.5 mm。

5～7月に見られる。本州（関東・中部）の他、アメリカ（ロングアイランド）に分布する<sup>3,9)</sup>。雌雄は、♂の触角片状部が♀に比べて長いことで区別できる。

7 ヒメカンショコガネ *Apogonia amida*

標本：1 ex 20080610 昭和区滝川町（体長8 mm）（写真7）

観察したのはこの1例のみである。温暖系の種であるので、今後増える可能性がある。本州（関東以南）・四国・九州の他、台湾・青島にも生息するらしい<sup>3)</sup>。

8 クリイロコガネ *Miridiba castanea*

標本：1 ex 20030725 名東区藤巻町（写真8a）；1 ex 20060602 名東区藤巻町（写真8b）

体長：19～20 mm。

次の3種に似るが、特有の色彩と上翅に縦隆がないことによって区別できる。本州・四国・九州の他、朝鮮半島・中国・モンゴル・シベリア（東部）に広く分布する<sup>3)</sup>。

9 クロコガネ *Holotrichia kiotonensis*

標本：1 ex 19650614 瑞穂区；1 ex 199605 昭和区滝川町；1 ex 19980517 昭和区滝川町（写真9）；1 ex 19980625 昭和区滝川町；1 ex 20020502 昭和区滝川町；1 ex 20020720 昭和区滝川町；1 ex 20040609 昭和区滝川町（死骸）；2 ex 20040612 昭和区滝川町；1 ex 20040703 名東区藤巻町（死骸）；1 ex 20040803 昭和区滝川町；1 ex 200506 名東区藤巻町（死骸）；1 ex 20060708 昭和区滝川町

体長：17～20 mm。

5～8月に見られる。幼虫は芝生につく。日本の他、サハリン・朝鮮半島・中国（北部）・

シベリア（東部）に広く分布する<sup>3)</sup>。

10 オオクロコガネ *Holotrichia parallela*

標本：1 ex 19890804 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 10c）；1 ex 19940708 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 10a）；1 ex 20030801 昭和区滝川町（写真 10b）；1 ex（茶色型）19890710 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 10d）\*

体長：20 mm。

7～8月に見られ、燈火に飛来する。クロコガネやコクロコガネと異なり、背面の光沢は鈍い。本州・四国・九州の他、サハリン・朝鮮半島・中国・チベットに分布する。台湾にも生息するらしい<sup>3)</sup>。

\*以前、クリイロコガネとして報告したが<sup>4)</sup>、再検討により、オオクロコガネの色彩変異であることが判明した。燈火に飛来したものであるので、未熟個体とは考え難く、黒化が起こらない色彩変異と考えた。

11 コクロコガネ *Holotrichia picea*

標本：1 ex 19900417 昭和区滝川町<sup>1)</sup>（写真 11a）；1 ex 19920514 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 11c）；1 ex 19920602 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 11b）

体長：19 mm。

4～6月に見られ、燈火に飛来する。クロコガネに似ているが、前胸背板前縁に直立する刺毛列を有することで鑑別は容易（写真 11d 矢印）。日本の他、朝鮮半島・中国（北部）・モンゴル・シベリア（東部）に分布する<sup>3)</sup>。

12 ナガチャコガネ *Heptophylla picea*

標本：♂ 19680802 瑞穂区（内藤宗孝採集）；♀ 19870605 昭和区滝川町；♀ 19900517 昭和区滝川町（燈火飛来）；♂ 19910530 昭和区滝川町（燈火飛来）；♂ 19920606 昭和区滝川町（燈火飛来）；2 ♂ 19980610 昭和区滝川町；2 ♂ 20040612 昭和区滝川町；♂ 20060627 昭和区滝川町；♂ 20070611 昭和区滝川町；♀ 20080715 昭和区滝川町（死骸）；♂ 20090607 昭和区八事本町興正寺（写真 12）

体長：11～14 mm。

5～8月に出現し、燈火にも飛来する。雌雄は触角片状部の長さによって区別できる。日本の他、サハリン・朝鮮半島にも分布する<sup>3)</sup>。

13 コイチャコガネ *Adoretus tenuimaculatus*（写真 13）

標本：1 ex 19910520 昭和区滝川町（燈火飛来）；1 ex 19920817 昭和区滝川町（燈火飛来）（飼育で 19930130 まで生存）；1 ex 20020502 昭和区八事本町興正寺（死骸）

観察・写真撮影：1 ex 20050521 9:10 千種区東山公園；1 ex 20080511 13:41 昭和区八事本町興正寺

体長：9.5～10.5 mm。

燈火にも飛来する。5～9月に出現し、成虫は広食性で、とくにクリ・ブドウ・ナラ類・ケヤキなどを好み、幼虫は芝生で発生する<sup>5)</sup>。成虫越冬する<sup>5)</sup>。本州・四国・九州の他、台湾・朝鮮半島・中国・インドシナ・ハワイに広く分布する<sup>3)</sup>。

14 マメコガネ *Popillia japonica*

標本：1 ex 19650820 昭和区（体長 11 mm）（写真 14）



筆者の幼少期には極めて普通で、標本として保存しているものは上記1例のみである。最近はあまり見かけなくなった。6～8月に発生する<sup>5)</sup>。日本全土の他、朝鮮半島・北アメリカ（人為的移入）に分布する<sup>3)</sup>。1916年にアメリカ合衆国ニュージャージー州で発見され、瞬く間に大発生して広がった。日本から移入されたものとして、Japanese beetleと呼ばれ、嫌われた。我が国では大きな農業被害は与えておらず、捕食者・天敵との平衡が保たれているものと考えられる。

15 カタモンコガネ *Exomala conspurcata*

標本：♀ 20090429 昭和区八事本町興正寺（体長 10 mm）（写真 15a）

観察・写真撮影：♂ 20030518 14:07（写真 15b） 昭和区八事本町興正寺；20040424 11:18 昭和区八事本町興正寺

4～6月にノイバラ、コゴメウツギ、ヒメジョオンなどの花上に見られる<sup>5)</sup>。雌雄は触角片状部の長さで区別できる。日本全土の他、朝鮮半島・中国（北東部）・シベリアに分布する<sup>3)</sup>。

16 セマダラコガネ *Exomala orientalis*

標本：♀ 196707 昭和区（写真 16a）；♀ 19910528 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 16h）；♀ 19910621 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 16j）；2 ♀ 19910623 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 16b, i）；♂ 19930627 昭和区滝川町（写真 16e）；♀ 19960603 昭和区滝川町（写真 16g）；♂ 19970511 昭和区滝川町（写真 16f）；♀（黒化型）19970628 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 16k）；♀ 200806 千種区星が丘元町（死骸）（写真 16c）；♂ 20090531 昭和区八事本町興正寺（クモにより捕食）（写真 16d）；♀（黒化型）20090705 昭和区滝川町（死骸）（写真 16k）

体長：8～11 mm。

5～8月に見られ、燈火にも集まる。背面の斑紋には変異が大きく、殆ど黒化するものもある（写真 16a-k）。雌雄は、♂は触角片状部が大きく、♀は小さいことにより区別できる。広食性で様々な植物を加害し、芝生にもつく。日本の他、サハリン・朝鮮半島・ミクロネシア・ハワイ・北アメリカに広く分布する<sup>3)</sup>。

17 アオドウガネ *Anomala albopilosa*

標本：1986年、中区栄で採集したのが最初<sup>10)</sup>で、以後、昭和区・瑞穂区・名東区・千種区で多数観察・採集。（写真 17a）

体長：19～23 mm。

6～10月に見られる。燈火に飛来する。近年北上傾向を示し、以前は見られなかった関東地方でも増加しており、ドウガネブイブイやヤマトアオドウガネを圧倒しているという<sup>5)</sup>。名古屋付近においても、近年はアオドウガネが優勢で、次種のドウガネブイブイは殆ど見られなくなっている<sup>13)</sup>。緑銅色ないし若干茶色あるいは赤色がかった程度の色彩変異が見られる（写真 17b）。本州（関東以南）・四国・九州の他、台湾・朝鮮半島に分布する<sup>3)</sup>。

18 ドウガネブイブイ *Anomala cuprea*

標本：1 ex 19650809 瑞穂区（体長 23 mm）（写真 18）。

筆者の幼少期には、極めて普通で、かつ臭い水様排泄物を放出するので子供たちから嫌われていた。『広辞苑（第5版）』には、ドウガネブイブイの項目はないが、「ぶいぶい」で

は、①物を言いたてるさま。特に、不平や小言をうるさく言うさま、②人にうるさがられ、さらわれる者、とある。いずれにしても嫌われ者で、良い印象はないようである。手元にある名古屋市内の標本は上記の1例のみである。当時は余りに普通であり、標本に残そうという気も起らなかった。その後、稀種になってしまうなどという状況は想像もできなかった。成虫は6～9月に発生し、ブドウなど各種広葉樹の葉を食害する。幼虫はサツマイモ・ナス・イチゴなどの根茎や、スギ・ヒノキなどの幼苗の根を食害する<sup>5)</sup>。分布は、日本全土の他、サハリン・朝鮮半島・中国・シベリア<sup>3)</sup>。

#### 19 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea*

標本：1 ex 20060820 昭和区八事本町興正寺（体長 14 mm）（写真 19）

青藍，緑銅，赤銅，栗色など体色の変異が大きい。古くから農作物や樹木を加害することが知られている。成虫は6～9月に発生し，広食性で，夜間燈火に集まる<sup>5)</sup>。分布は日本全土・サハリン・朝鮮半島<sup>3)</sup>。

#### 20 スジコガネ *Anomala testaceipes*

標本：♂ 19890808 昭和区滝川町（体長 17 mm）（燈火飛来）（写真 20）

成虫は6～9月に発生し，夜間燈火に集まる。針葉樹の害虫で，成虫はスギの小枝に多く，幼虫はスギの根を食害する<sup>5)</sup>。日本全土の他，サハリン・朝鮮半島・中国・シベリア（東部）に広く生息する<sup>3)</sup>。

#### 21 カブトムシ *Trypoxylus dichotomus*

標本：1965 年以降，瑞穂区・昭和区・名東区・千種区で多数，採集・観察している。

体長：♂ 34～55 mm（角を含まず），♀ 38～53 mm。

カブトムシは「兜虫」であるが、『広辞苑（第5版）』では「甲虫」の字も宛てている。周辺の自然環境悪化にも関わらず，毎年観察できる。とくに♂では大きさの差が激しいが，これは遺伝的変異ではなく，幼虫時代の環境，とくに栄養状態によることが知られている（写真 21a, b）。小型♂は大型♂と遭遇すると勝ちを譲って立ち去り，小型♂は大型♂よりも早い時間帯に活動し，早い時間帯に出てきた♀を交尾相手として獲得することができるという<sup>14)</sup>。名古屋付近では，クヌギの樹液に好んで来集する（写真 21c）。西南部では，主にカシ類，本州の中部・北部や高標高地ではマメ科のニセアカシアやサイカチの樹液のほか，ヤナギ類にも依存しているという。また，ブドウ・モモ・スモモの熟した果実を食する<sup>15)</sup>。日本の他，朝鮮半島・中国・インドシナ半島・インド（北東部）に広く分布し，フィリピンにも生息するらしい。北海道のものは人為的な移入であるという<sup>3)</sup>。

#### 22 コカブトムシ *Eophileurus chinensis*

標本：♀ 19930919 昭和区八事本町興正寺（死骸）；♀ 20001007 昭和区八事本町興正寺（死骸）；♀ 20020720 昭和区八事本町興正寺（死骸）；♀ 20020726 昭和区八事本町興正寺（死骸）（写真 22c）；♂ 20030622 昭和区八事本町興正寺（死骸）；♀ 200406 昭和区八事本町興正寺；♀ 20040619 昭和区八事本町興正寺；♀ 20040919 昭和区八事本町興正寺；♂ 20050723 昭和区八事本町興正寺（クヌギ樹液）；♀ 20050807 昭和区八事本町興正寺（死骸）；♀ 20060520 昭和区八事本町興正寺（死骸）；♂ 20090603 昭和区滝川町（燈火飛来）（写真 22a, b 矢印は角）；♀ 20090815 昭和区八事本町興正寺（死骸）

体長：20～24 mm。



5～10月に見られ、燈火に飛来することもある。今世紀に入って八事興正寺近辺でよく見かけられるようになった。大部分の食葉性コガネムシが植物質を食べるのに対し、コカブトムシは幼虫・成虫ともに肉食性を示すという<sup>5,6,9)</sup>。一般に、コカブトムシは樹液に集まることはほとんどなく<sup>16)</sup>、ミミズや他の昆虫など動物性のものを食べ、飼育下では肉類の餌を好み、共食いも観察されるという<sup>6)</sup>。筆者の飼育経験では、市販のカブトムシ・クワガタムシ用ゼリーを食し、野外で樹液にやってきた例も観察している。また、コカブトムシの飼育法には、成虫は餌としてカブトムシの蛹をよく食べるが、高蛋白ゼリーで代用できると書かれている<sup>17)</sup>。冬季(12月～3月)には、マツやヤナギの立ち枯れ・倒木朽木で成虫が得られるという<sup>18)</sup>。分布は広く、日本・台湾・朝鮮半島・中国・ミャンマー・ブータン・シベリア(東部)に及んでいる<sup>3)</sup>。

## 23 カナブン *Pseudotorynorrhina japonica*

標本：1965年以降、観察・標本多数(写真23a-m, n)

体長：24～30 mm。

カナブン(金蚤)は、「かなぶんぶん」とも言い、ブンブンと飛び方がうるさいところから来ている。カナブンの仲間(ハナムグリ亜科)は上翅を閉じたまま、側方に後翅を出して、蜂のように高速で軽快に飛ぶことが出来る。6～9月に樹液・熟果に集まる(写真23n)。燈火にもやってくる。最近では、シロテンハナムグリとともに数が減っている。飼育下では年1化とされるが、幼虫の生息場所を含めて詳しい生態はよくわかっていない<sup>5)</sup>。雌雄は、♂の前脛節は細長く1外歯のみ、♀は幅広く2外歯であることで区別できる。多彩な体色を示し、通常は黄褐色ないし茶褐色であるが、赤褐色・緑色・紫藍色のものも知られている。名古屋近辺では、褐色・黄褐色・緑色のものが見られるが、赤褐色や紫藍色のものは見かけない(写真23a-m)。分布は、本州(山形以南)・四国・九州の他、朝鮮半島・中国と広い<sup>3)</sup>。

## 24 ハナムグリ(ナミハナムグリ) *Cetonia pilifera*

標本：1 ex 19670602 昭和区(写真24a)；1 ex 19900812 昭和区広路町石坂(写真24d)；1 ex 19920628 瑞穂区春山町(写真24c)；1 ex 20070613 昭和区滝川町(死骸)(写真24b)

体長：17～18 mm。

ハナムグリとは、「花潜り」であり、花に潜って、花粉や蜜を食べることから来ている。6～8月に種々の花に飛来する。海岸線から低地を主な生息域としている<sup>5)</sup>。雌雄は、♂では腹部第2～5腹板中央に深い縦溝があるのに対し、♀ではこれを欠くことで区別できる。一般に夏期に出現する個体は上翅の毛が少ない<sup>9)</sup>。日本全土の他、台湾・朝鮮半島・中国にも生息する<sup>3)</sup>。

## 25 シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis*

標本：1965年以降、観察・標本多数

体長：20～25 mm。

5～9月、樹液に集まるほか、花に来ることもある。濃緑銅色・赤銅色・黄緑銅色・紫銅色など体色の変異が多いが、名古屋付近では、黄銅色・緑銅色のものが見られる(写真25a, b)。雌雄は、♂では腹部腹板中央が凹圧され、前脛節は細く第3外歯が不明瞭であることで区別される。日本全土の他、台湾・朝鮮半島・中国にも分布する<sup>3)</sup>。

26 コアオハナムグリ *Gametis jucunda*

標本：1 ex 198506 昭和区滝川町 (写真 26j)；1 ex 19880918 昭和区滝川町 (死骸)  
(写真 26g)；1 ex 198909 昭和区滝川町 (写真 26k)；1 ex 19900922 昭和区  
滝川町 (飼育で 19910604 まで生存) (写真 26h)；1 ex 19910824 昭和区滝川町  
(写真 26l)；1 ex 19911002 昭和区滝川町 (写真 26f)；1 ex 19920906 昭和区  
滝川町 (死骸) (写真 26i)；1 ex 19940820 昭和区滝川町 (写真 26a)；1 ex  
20020907 昭和区滝川町 (死骸) (写真 26e)；1 ex 200211 昭和区滝川町 (飼育  
で 20030505 まで生存) (写真 26d)；1 ex 20050903 昭和区滝川町 (写真 26b)；  
1 ex 20080530 名東区藤巻町 (死骸) (写真 26c)

体長：12～14 mm。

5 月から 11 月まで見られる。種々の花に集まるが (写真 26m)，極稀に樹液にやってくるのも観察している (写真 26n)。4～5 月に交尾・産卵し，新成虫は秋口に出現して，摂食活動をした後，越冬する<sup>5)</sup>。筆者の飼育経験でも，秋に採集した個体は翌年の 6 月まで生存する。ハナムグリと異なり，夏期に出現する個体は上翅の毛が少ないというわけではない (写真 26a-l)。春と秋に多く，夏には少ない傾向がある<sup>9)</sup>。雌雄は，♂の前脛節は♀より細長く，外歯もより細いことで識別される。日本全土の他，朝鮮半島・中国・シベリアにも分布する<sup>3)</sup>。

27 ヒメトラハナムグリ *Lasiotrichius succinctus*

標本：1 ex 19940611 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20090613 13：53 千種区東山公園 (写真 27 ヒメジョオンの花に飛来)

観察・写真撮影：1 ex 20090520 8：11 名東区藤巻町

体長：10～11.5 mm。

平地から山地まで生息域が広く，成虫はクリ・ウツギ・サワフタギ・ノリウツギ・リョウブなどの花に集まる<sup>5)</sup>。雌雄は，♂では腹部腹板は中央で陥凹するのに対し，♀では陥凹しないことにより区別できる。日本全土の他，サハリン・朝鮮半島・中国・モンゴル・シベリアに広く分布する<sup>3)</sup>。

28 ヒラタハナムグリ *Nipponovalgus angusticollis*

標本：2 ♂ 19940624 昭和区八事本町興正寺；♂ 19970511 昭和区八事本町興正寺；  
♂ 20070505 昭和区滝川町

観察・写真撮影：♂ 20030429 10：34 昭和区八事本町興正寺；♂ 20040418 13：  
58 昭和区八事本町興正寺；♂ 20040411 11：17 昭和区八事本町興正寺；♂  
20090503 12：26 昭和区八事本町興正寺 (写真 28)；♂ 20080422 8：31 千  
種区東山公園

体長：6 mm。

♂は 4～6 月に種々の花に集まる。♀は主に松の樹皮下におり，そこで交尾を行うという<sup>5)</sup>。雌雄は，♀の上翅は♂に比べて，やや短く，体型はやや短太で肢が短いことにより区別される。日本全土の他，朝鮮半島・中国にも分布する<sup>3)</sup>。

## ま と め

- 1 名古屋市東部, とくに千種区東山公園・昭和区八事周辺からコガネムシ 28 種を記録した。
- 2 このうち, コクロコガネ・クリイロコガネ・カミヤビロウドコガネ・ワタリビロウドコガネ・アオドウガネ・ヒメトラハナムグリの 6 種は『愛知県の昆虫 (上)』に名古屋市からの記録がないものである。
- 3 最近数十年間で, アオドウガネは増加し, ドウガネブイブイは激減した。
- 4 数十年前には極めて普通であったカナブン・シロテンハナムグリ・マメコガネは個体数が減少している。
- 5 ヒメカンショコガネは温暖系の種であり, 今後増加する可能性がある。
- 6 コカブトムシは, 以前あまり見られなかったが, 2000 年以降, よく観察されるようになった。

## 文 献

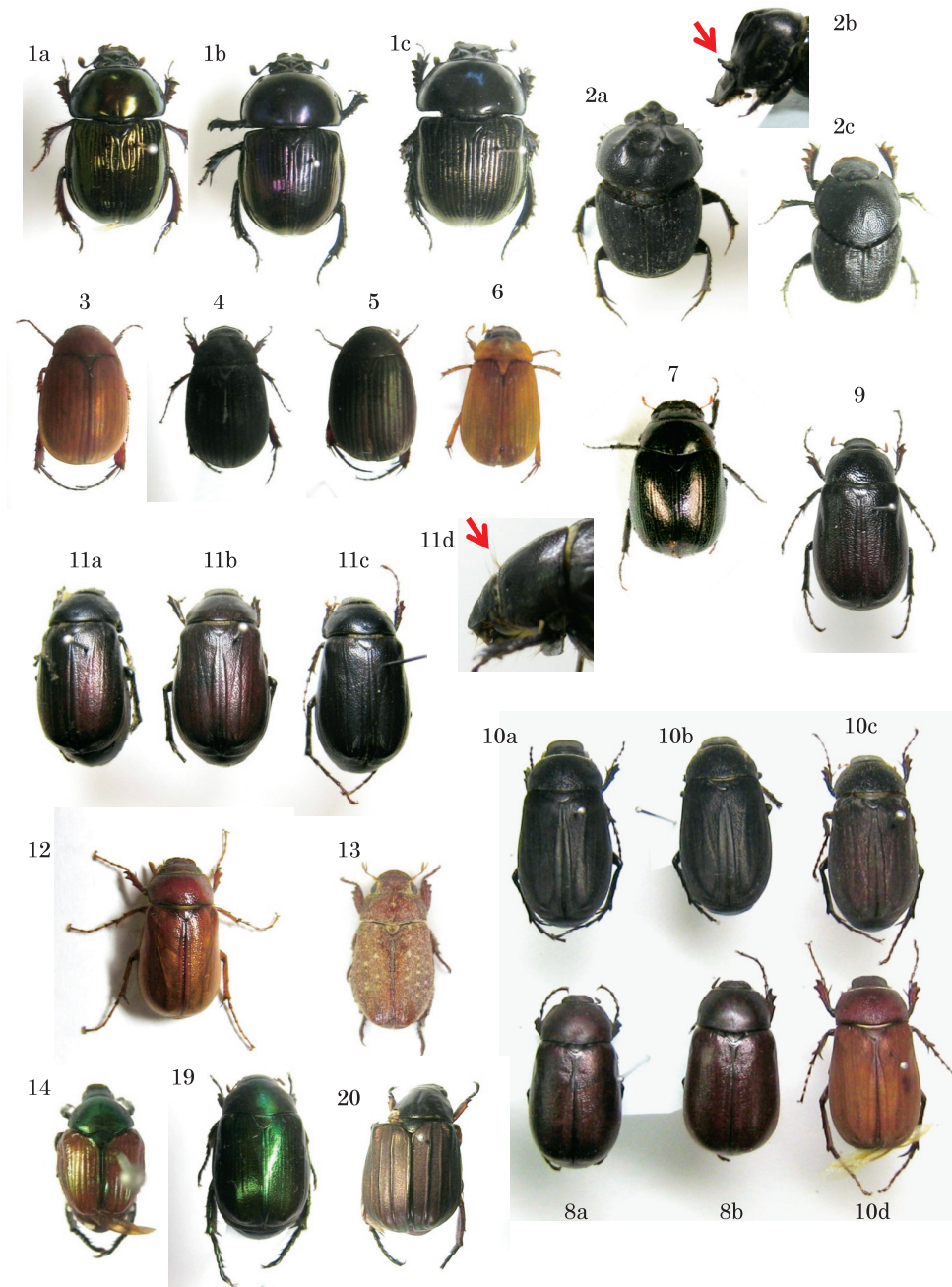
- 1) 愛知県昆虫分布研究会: 愛知県の昆虫 (上) 愛知県 1990
- 2) 愛知県: 第二次レッドリスト 2008 (<http://pref.aichi.jp/0000013869.html>)
- 3) 藤岡昌介: 日本産コガネムシ上科総目録 コガネムシ研究会 2001 (ISBN1346-0943)
- 4) 川井信矢, 堀繁久, 河原正和, 稲垣政志編著: 日本産コガネムシ上科図説 第 1 巻 食糞群 2005 (ISBN4-902649-02-0)
- 5) 酒井香, 藤岡昌介: 日本産コガネムシ上科図説 第 2 巻 食葉群 1 2007 (ISBN978-4-902649-03-1)
- 6) 石井実・大谷剛・常喜豊編: 日本動物百科 10 昆虫Ⅲ 平凡社 1998 (ISBN4-582-54560-2)
- 7) 新訂原色昆虫大図鑑 第Ⅱ巻 (甲虫篇) 北隆館 2007 (ISBN978-4-8326-0826-9)
- 8) 戸田尚希: 中部地方のビロウドコガネ属 佳香蝶 60(234): 205-206, 2008
- 9) 黒澤良彦, 佐藤正孝編著: 原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ) 保育社 1984 (ISBN4-586-30069-8)
- 10) 内藤通孝: 名古屋市におけるコガネムシ科の追加記録 月刊むし 226: 17-18, 1989
- 11) 内藤通孝・舟木千明: 名古屋市における甲虫類の記録(1) 月刊むし 249: 40-41, 1991
- 12) 黒沢良彦, 日高敏隆編: 原色昆虫百科図鑑 小学館 1967
- 13) 内藤通孝: 名古屋東山周辺の昆虫相 I. 概論 椋山女学園大学研究論集 (自然科学篇) 38: 137-149, 2007
- 14) 週刊朝日百科 動物たちの地球 79 昆虫 7 カブトムシ・コガネムシ・ホタルほか 1992
- 15) 永井信二: 日本のカブトムシ大図鑑 BE-KUWA 24: 8-29, 2007
- 16) 吉田賢治: カラー図鑑クワガタムシ・カブトムシ 成美堂出版 1995 (ISBN4-415-08156-8)
- 17) 上亟健介: マイナーな国産カブトムシ 3 種の採集&飼育 BE-KUWA 24: 46-51, 2007
- 18) 三村義友: 朽木などから得たコカブトムシ 鯉角通信 17: 24-26, 2008

## 写 真

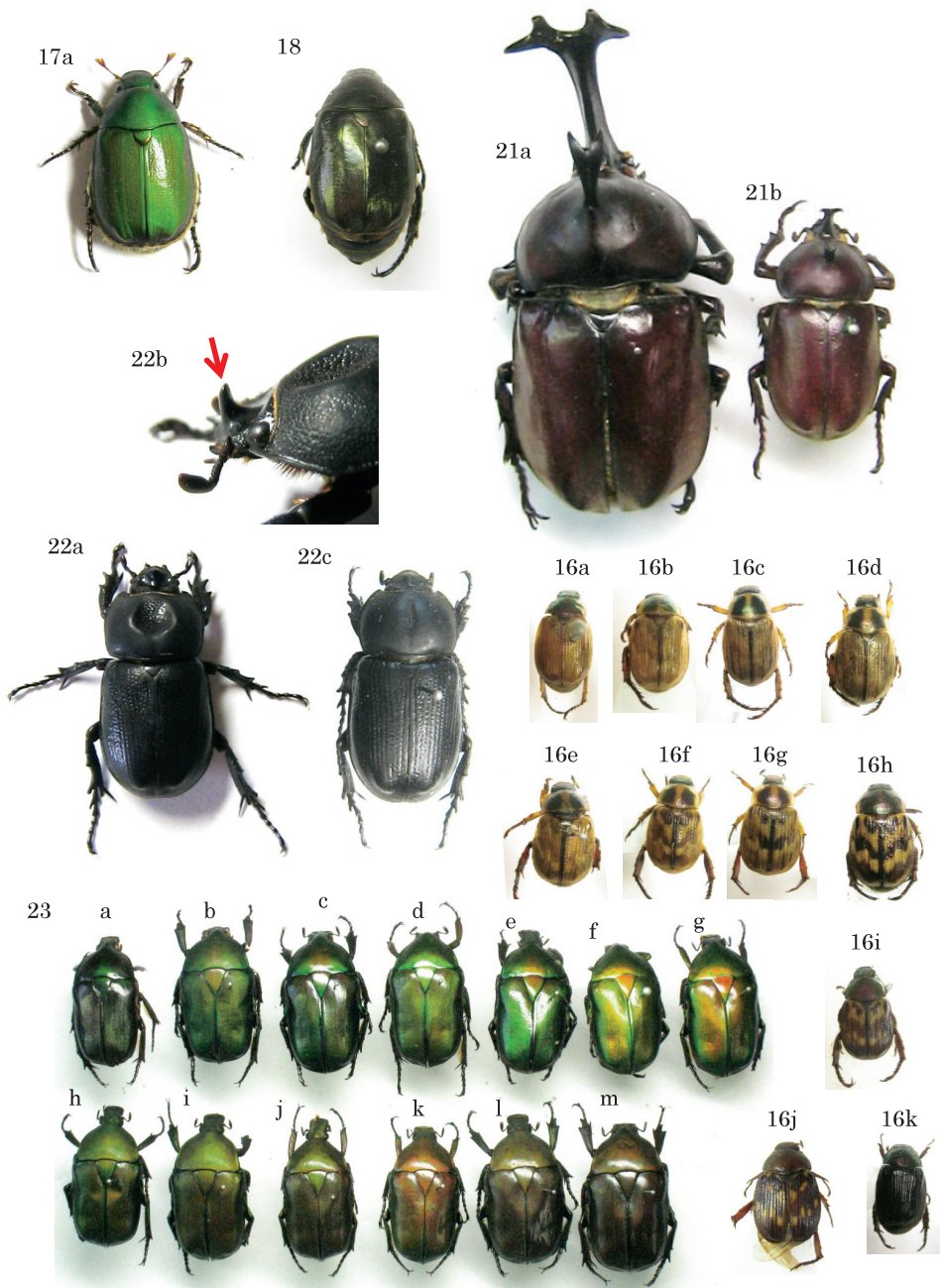
- 1a-c センチコガネ  
2a-c コブマルエンマコガネ

- 3 アカビロウドコガネ
- 4 ビロウドコガネ
- 5 カミヤビロウドコガネ
- 6 ワタリビロウドコガネ
- 7 ヒメカンショコガネ
- 8 a,b クリイロコガネ
- 9 クロコガネ
- 10 a-d オオクロコガネ
- 11 a-d コクロコガネ
- 12 ナガチャコガネ
- 13 コイチャコガネ 20090523 12:59 千種区東山公園
- 14 マメコガネ
- 15 カタモンコガネ マーガレットの花に飛来。
- 16 セマダラコガネ 20090702 16:08 千種区東山公園 ヒメジョオンの花上で。
- 17 アオドウガネ
  - a: 20080616 22:47 昭和区滝川町 燈火に飛来。
  - b: 20050818 17:34 昭和区八事本町興正寺
- 18 ドウガネブイブイ
- 19 ヒメコガネ
- 20 スジコガネ
- 21 カブトムシ
  - a: ♂最大個体 (55 mm) b: ♂最小個体 (34 mm)
  - c: 20070731 8:10 千種区東山公園 クヌギの樹液にやってきた。
- 22 a-c コカブトムシ
- 23 カナブン
  - a-m: カナブンの色彩変異 いずれも昭和区内で採集。
  - n: 20050706 19:10 昭和区八事本町興正寺
- 24 a-d ハナムグリ
- 25 シロテンハナムグリ
  - a: 緑銅色型。20080728 9:49 昭和区滝川町
  - b: 20020825 17:38 昭和区八事本町興正寺
- 26 コアオハナムグリ
  - a-l: コアオハナムグリの色彩変異
  - m: 20071013 14:14 千種区東山公園 セイタカアワダチソウの花に飛来。
  - n: 20070819 17:36 昭和区八事本町興正寺 クヌギの樹液に飛来した。右はオオスズメバチ。
- 27 ヒメトラハナムグリ
- 28 ヒラタハナムグリ

名古屋東山周辺の昆虫相









名古屋東山周辺の昆虫相

